



看護学科

大場 良子 准教授

【研究分野】 がん看護学（婦人科がんの心理とケア）、健康心理学

【キーワード】 婦人科がん、女性性、再適応、ピアサポート

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=117ooba>

婦人科がん体験者のための支援モデルの開発

研究概要

近年、子宮がん（頸がん、体がん）、卵巣がんなどの婦人科がんは増加傾向にあります。婦人科がんの治療後の後遺症の実態は、認知されにくく、適切な時期に適切な情報提供と心理社会的なケアは十分ではありません。当事者は女性ならではの問題（結婚、恋愛、妊娠、出産、性の問題、外見の問題など）を相談する機会がもてないため、孤独になりやすく、女性としての生きづらさを感じている場合があります。

本研究では婦人科がん体験者のインタビューやアンケート調査に基づき、女性ならではの問題に対する支援と、本来の自分を取り戻す支援を検討しています。

研究紹介

1. 婦人科がん体験者のための支援モデルの開発
女性特有がんのサポートグループとの連携による共同研究
 - 1) 本来の自分を取り戻すための語りと交流の場
 - 2) 婦人科がん特有の後遺症に対する支援
 - ・卵巣欠落症状（閉経に関わる問題）、排泄障害、リンパ浮腫、セクシャリティ等
 - 3) 治療による外見の問題に対する支援（アピアランスケア）
2. 婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発
後遺症に関わる生活上の困り事や不安を解決するために、当事者の体験に基づいた後遺症対策の製品開発を検討中。

講座テーマ紹介

1. 婦人科がん特有の後遺症への対処に関する講座
2. 治療による外見の問題と対処（アピアランスケア）に関する講座
3. 婦人科がん体験者のためのピアサポート（がん体験者向け）

アピールポイントなど

長年、女性特有がん（婦人科がん、乳がんなど）のためのサポートグループにおいて、体験者への支援に関わっています。また、患者会団体と共同研究にも取り組み、学会発表や講座企画、様々な視点からの支援プログラムを企画し展開しています。

婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発も検討中です。企業との共同開発のお誘いもお待ちしております。